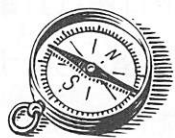


# RM&FP NEWS LETTER



リスクマネジメント&ファイナンシャルプランニング

2013年 夏 第88号 By FP Compass

## ◇雨の日の運転は“スリップ”

### にご用心

春の寒さから一転、気温も一気に上昇し、梅雨シーズンが近づいてきました。

窓の外は土砂降りの雨でも、用事などで出掛けなければならぬ時もあります。

こんな時、自動車はほとんど濡れずに目的地まで移動できるのでとても便利です。

しかし、雨の日の運転はスリップや見落としなどの危険も大きく、晴れた日と同じ感覚で運転していると思わぬ事故を起こすことがあります。

そこで、雨の危険を知り、どのような運転をすれば良いかを考えてみましょう。

※雨の日にはこんな危険が潜んでいます。

◆雨で路面が滑りやすくなります。特に降り始めは道路上のほこりなどがグリース状になって潤滑油のような働きをするため、滑りやすくなります。

◆雨天時は車だけではなく歩行者や自転車に乗った人の視界も悪くなります。

◆サイドミラーに付着した水滴により、後続車を確認しにくくなり、特に車体の小さい二輪車を見落としやすくなります。

※それらに対応する方法をアドバイスします。

■雨が降り始めたら速度を落とし、急ブレーキや急ハンドルは禁物です。早めの危険予測

で余裕のある運転操作をしてください。

■走行中、前車両との追突を防止するために晴れた日よりも車間距離を多めに。

■激しい雨などで暗くなったとき、昼間でもヘッドライトを点灯して、他車や歩行者などに自車の存在を積極的にアピールしよう。

■歩行者や自転車の急な直前横断が予測されます。特に歩道や路側帯に水たまりがあるところでは、それを避けて車道に飛び出してくることもありますので注意してください。

このように、雨の日の運転は危険が多く潜んでいます。特に歩行者や自転車は着用している衣服にもよりますが、大変見にくいので発見が遅れがちとなります。

相手が歩行者や自転車の場合、いわゆる過失割合が対自動車よりも大きくなります。

ただ、飛び出しや事故の状況等により、歩行者や自転車側にも大きな過失が発生することがありますので、この場合の示談交渉(和解交渉)は長引く可能性が高くなります。

その理由としては、交通弱者と言われる歩行者や自転車搭乗者側がケガをするからです。

そうなれば被害者意識が強くなり、過失割合でもめる傾向が強まります。

そのとき役に立つのはあいおいニッセイ同和損保の「対歩行者等傷害特約」です。

詳細は担当者までお問い合わせください。

## ◇突然ですが、お葬式の準備は なさっていますか？

流通ジャーナリストとして、テレビなどで活躍された、故金子哲雄さんの「死に様」には大変感銘を受けました。

41歳という若さでこの世を去ることは、本人にとっても大変つらいものではなかったかと拝察されます。

発症率が10万人に1人といわれる、「肺カルチノイド」という悪性の腫瘍でありました。

効果的な治療方法もなく、医師からは「余命0日」、つまり「今すぐ死んでも驚かない」と突然の宣告を受けたそうです。

金子さんは死の恐怖と闘いながらも、彼なりの哲学を立派に通したことが語り草になっています。

死んだ後のことは遺族が執り行う、というのが一般的です。

ところが金子さんは闘病と仕事を続けながら、自分で「死ぬ準備」を進めていくことに、あくまでこだわりました。

金子さんは、消費者のお得感を一番に考えてきた「コストカットのプロ」でしたが、自分の葬儀に関しては、コストよりも常に遺された人たちのことを最優先で考えていたそうです。

莫大な遺産が有る無しに係わらず、きちんと整理することにより残してしまった人たちに嫌な思いをさせたくないという、彼自身の優しさが感じられました。

死後の親族間による相続争いを回避するために、細心の注意を払いながら、誰に相続させるかなど、生前に公正証書遺言を作成する

ことで、死後に想定されるトラブルの芽を全て摘んだそうです。

また、死亡すると直ちに預金口座は封鎖されてしまいますので、故人の口座からはすぐに現金を引き出すことが不可能になります。

葬儀代として、銀行から現金を引き出すには、故人の戸籍謄本または除籍謄本(法定相続人の範囲がわかるもの)、除籍謄本の発行は役所において死亡届受理から10~14日後になる場合が多いです。(詳細は役所にご確認ください)

また、法定相続人全員の戸籍謄本と印鑑証明書(いずれも3ヶ月以内発行のもの)と葬祭業者の見積書や請求書などの提出が求められます。(詳細は各銀行にご確認ください)

そのため、金子さんは葬式の費用は全て自分で支払うと決めていましたので、事前に葬儀などに掛かる費用を葬祭業者に見積もってもらい、喪主を務めることになるご夫人の口座に現金を移しておいたそうです。

さらに金子さんは、遺された妻のその後の生活についても思いを巡らせ、今の部屋では一人暮らしとなれば広すぎて、家賃負担も馬鹿にならないと考え、コストを下げながらも、一人暮らしに十分な広さと快適さを備えた部屋を妻のために、ご自身で選ばれたそうです。

金子さんは自分の「最後」を、最後の仕事として、見事にプロデュースしました。

その結果、彼の寿命を延ばし、周囲の遺された人たちにも鮮烈な印象を残し、葬儀社の社長にも「エンディングとは、その人の生き方そのもの。あれほど清々しく爽やかな葬儀は見たことがありません。」と言わしめました。

生前、金子さんが一通りの準備を済ませた後で「これでいい死に方の花道が整えられた」とおっしゃったそうですが、まさに見事な花道を飾られたと思います。

このような見事な人生のエピローグをプロデュースすることは一般的に難しいです。

全て前向きに考えられる人生哲学や死後の整理をする知識やスキルが必要とされます。

また、金子さんのように結果的に時間があつたことも、うまくいった要因と思われます。

人生のエピローグが突然訪れたときは、死後の準備はできていないのが普通でしょう。

そのためか最近「エンディングノート」なるものが書店に並ぶようになりました。

ネット上にも「エンディングノート」の書式・ひな形が、有料・無料で公開されています。

その中身は以下のような内容を含むものが多いようです。

自分史(これまでの人生を振り返った思い出など)

資産一覧(現預金、定期、不動産、株式、投資信託、生命保険など)

介護や延命治療などについての考え、希望など

葬儀やお墓についての希望

遺産相続における希望、遺言書の有無

家族や親戚、友人への言葉

ここで注意をすることは、「エンディングノート」には「公正証書による遺言書」と違い、法的な効力は無いという認識が必要となります。

この「エンディングノート」を残すメリットは3つあります。

1. 自分に万が一があつたとき家族が困るような事を少なくできます。

2. 日常生活の備忘録としても使えます。

物忘れを起こしやすくなっても住所録や連絡先などの情報を1箇所にまとめたノートがあると日常生活でも便利です。

3. 家族に対する自分の愛情を伝えることができます。

このように、「エンディングノート」は、今まで「死」と、向き合うことを忌み嫌う傾向が強い国民性を変えることになるかも知れません。

相続対策などを生前に構築する際に「俺の目の黒い内は…」という言葉で一蹴され先に進まないことも見受けられました。

しかし、平成27年1月1日以降の相続税を含む税改正により、相続税の控除が引き下げとなり、相続税課税対象者が大幅に増えることが推測されます。

また、権利意識の変化などにより相続争いも多くなっています。

そのためにも、生前から「エンディングノート」、「公正証書による遺言書」、「生命保険」を利用して備えることが大切です。

ただし、生命保険の場合、終身保険を利用して、被相続人には「元気で長生き」していただく内容とするのが良いと思います。

生命保険金は受取人の固有の財産となるので、口座の凍結とは関係なく、受取人の請求で速やかに受け取れますので、他の金融商品とは一線を画します。

契約形態や受取人を誰にするかは、専門家に相談なさることをお勧めします。

## ◇盛岡でのセミナーに参加

5月24日～25日に、メットライフアリコ生命保険代理店会主催の「東北ブロックセミナー」(岩手代理店会主幹)に参加をしてきました。

東北6県の代理店が約220店ほど、繋温泉に集まり、2日間に渡り開催されました。

来年度は山形代理店会が主幹となるために山形からも総勢29名が参加しました。

まず最初に、故円楽師匠のお弟子さんであります、三遊亭楽之介さんの講演で、テーマは「笑いと営業」という題目でした。

本来ならば「笑いと健康」といったところでしょうが、保険代理店のセミナーということで「笑いと営業」なったのかと思います。

さすがに落語のプロですから、話は大変上手です。

その中で、正確な表現方法は忘れましたが営業を含めた処世術の中で、「人の世は五分の真味(そのもののもつ本当の味わいや趣)、二分の俠気(一種の正義感のようなもの)、そして三分の茶目(おちゃめなこと)で暮らせよ」という言葉を話していましたが、まさに絶妙なバランスだと感じ入りました。

その後に「みやびびっきの会」(さとう宗幸が代表として、稲垣潤一、山寺宏一などのメン

バーが、東日本大震災で被災した東北3県のこどもたちを支援する会)のメンバーで、山形県出身の「小柴大造」さんのトークと歌を聴かせて頂きました。被災地に対する応援歌として「虹を架けよう」の宮城・岩手バージョンを会場全員で歌い、一体感のある講演でした。

「みやびびっきの会」では

1. こどもたちの夢の応援
2. こどもたちが使用する楽器のリペア(修理)支援(2005年より継続中)
3. ハワイ・レインボー・キッズ・プロジェクトへの協力継続

この3つの柱を軸に支援活動を行っているそうです。ご興味のある方は下記のアドレスへ

<http://bikkifund.net/index.html>

翌日には岩手大医学部教授の立身正信さんの講演で「心と体の健康法」という題目での講演でした。

深呼吸をするとき普通は大きく吸うことから始めますが、本来は大きく吐いてから自然に吸うのが良いそうです。

そうすることにより気持ちを落ち着かせ血圧などを下げる効果があると話していました。

深呼吸という文字の順序も理にかなっているなとつくづく感じました。

発行者 有限会社 FPコンパス

武田幸夫 大木隼人 西塚英樹 木村正照 阿部 信 大西忠兵衛

阿部 尊 佐藤和一 深瀬幸子 多田恵子 土赤 妙

〒994-0063 山形県天童市東長岡2-1-34

TEL 023-658-3512 FAX 023-658-3513

E-mail [postmaster@fpcompass.co.jp](mailto:postmaster@fpcompass.co.jp)